

特別養護老人ホーム
ハッピーヒルズ（幸せの丘）

平成30年度・事業計画書

社会福祉法人 博愛会

・法人理念

[博 愛]

平等に愛すること。

ひろく愛すること。

・施設理念

「おかえりなさい」笑顔で迎える
ハッピーヒルズ(幸せの丘)

・ケア指針

①チームケア

②認知症ケア

③報告・連絡・相談

1. 運営方針（理念）

- ①個人の人権・尊厳を大事にし、入居者・利用者の意思を尊重します。
- ②自宅における生活の復帰を常に年頭に置き、自立した日常生活が維持できるよう、残存機能に応じた支援を行います。
- ③明るい家庭的な雰囲気をつくり、ご家族や地域との結びつきをたいせつにした運営を行います。
- ④地域の皆様との交流を行い、地域における福祉の拠点としての施設作りを推進します。

2. 重点目標

(1) ユニットケア・個別ケアの確立

- ①ユニットケアの基本・特性・意義をあらためて確認し、当施設におけるユニットケア・個別ケアの在り方の確立をめざします。
その為に、施設内での研修や勉強会等を企画開催するとともに、積極的に外部の研修等への参加を勧めます。
- ②個別ケアを行うにあたり、入居者利用者の個性や気持ち生活のリズムを知り理解した支援を行います。そのツールとしての24時間シートを導入します。
- ③ユニットリーダーの養成・育成に努め、ユニットリーダーの役割や権限を明確にすると共に、ユニットリーダーを中心にそれぞれ自主的・主体的に入居者個々の心身状況に合わせた特色あるサービスが取組めるようにします。

(2) 認知症ケアの確立

- ①入居者・利用者の認知症症状の有無を見極め、より専門性の高い支援を行える様にします。さらに、施設全体で共通認識した支援を行います。
- ②認知症に対する専門知識や対応技術の習得及び職員個々のスキル向上の為、認知症ケア専門士やユニットリーダーを中心に、研修会等を企画し実施します。さらに、積極的に外部の研修会等への参加を勧めます。
- ③認知症ケア専門士資格の取得を奨励すると共に、よりさらに専門的な知識や資格の習得ができる様支援します。

(3) 人事考課体制や教育研修体制の確立

- ①職員が将来展望を持ち、意欲的に仕事ができるよう、職員一人ひとりの明確な評価・目標管理を組織として実施できる人事考課システム、キャリア形成の為、職員一人ひとりの能力・資格・経験等に応じた効果的且つ明確な教育研修体制の確立をめざします。

3. 具体的目標

(1) 相談・支援業務

- ①入居者・利用者、ご家族、職員間との連絡調整をより密に行い、常に迅速適切なサービスが提供できるよう努めます。
- ②施設入所の相談・利用申込み他、介護保険制度や介護サービスそのものの相談等、様々な相談に即応できる様、生活相談員や介護支援専門員に限らず全職員が行える体制とします。
- ③施設内の多職種が連携・協働し円滑に業務遂行できるような体制づくりに努めます。

(2) ケアマネジメント体制

- ①入居者・利用者のニーズや思いに沿い、尊厳を保持し、その有する能力に応じ、自立した生活を営むことができるよう、個別サービス計画（施設サービス計画、個別機能訓練計画等）を多職種協働で策定し、計画に沿ったサービスを提供します。
- ②各個別サービス計画が日々の生活のなかでどれだけ有効に展開されているか、評価・モニタリングを適切に実施し、必要に応じた見直しを行い、個別ケアの充実を図ります。
- ③個別ケアの実現の為、24時間シートを導入し、適切な運用・活用導入に向け積極的に研修会・勉強会の開催や参加を勧めます。

(3) 生活支援サービス

- ①施設全体はもとより、各ユニットにおいて、入居者・利用者一人ひとりが生活に満足を感じることができるような支援を行います。
- ②「心の通う支援」をめざし、入居者・利用者と職員との信頼関係、家族との信頼関係を構築し、入居者・利用者、ご家族、職員間のコミュニケーションや交流の機会を図ります。
- ③入居者・利用者の心身の状況や本人の生活リズムや意思を尊重し、食事・入浴排泄の介助及び一人ひとりの個性を生かした、生活支援を行います。
- ④入居者・利用者の人権と思いを尊重、配慮した支援を行います。

(4) 健康管理・看護業務

- ①入居者・利用者一人ひとりが心身共に健康で、充実した日常生活を送れるよう、個別ケアプランに基づき、利用者個々の状態の変化に応じた健康管理に努めます。
- ②個別のアセスメントやケアプランを基本に、多職種協働により疾病の早期発見、治療に努めます。さらに、嘱託医師の指導により慢性疾患の悪化予防と適

宜保健指導に努めます。

- ③通院、入院等については、嘱託医師の指導、助言の下に協力病院、専門病院及び個々の入所前主治医と連携し、適切に対応します。
さらに入院中は、入院病院との連絡、情報交換を行い、早期退院できる様、援助します。
- ④協力歯科医院等により、口腔内の衛生及び歯科健康や治療を充実させます。
- ⑤日常生活動作（ADL）を維持し、利用者一人ひとりの障害に合せた補助具（補装具）等を工夫し日常生活に適応できるよう働きかけます。
さらに、多職種協働により、利用者一人ひとりの健康や障害等のレベルに応じた施設内の環境整備を行います。
- ⑥ショートステイ利用者の、利用期間中における健康を管理します。
 - （ア）初回の利用者については、事前に健康状態等の確認を行います。
 - （イ）利用者の家族、担当介護支援専門員、保健・医療・福祉の各機関との連携を図りながら、利用者の状況の把握に努めます。
 - （ウ）利用期間中の健康状態の把握に努め、状況に応じて適切な対応に努めます。
 - （エ）利用の終了に当たっては、家族に利用中の健康状態を伝え、在宅生活に関する助言等を行います。

（５）機能訓練

- ①ADL・I ADLの低下防止とともに、生活の質（QOL）の向上をめざし、機能訓練指導員を中心に、利用者一人ひとりの身体的、精神的状況を把握、評価しながらリハビリプログラムを作成し、看護・介護職員及び多職種で情報共有と連携を図ります。
- ②離床やレクリエーション（余暇活動）を通じて身体を動かすことをリハビリのひとつとして捉え（生活リハビリ）、日常生活の中で積極的な離床を推進します。

（６）看取り介護（ターミナルケア）

- ①24時間常に主治医との連携を保ち、すぐに対応できる体制構築し、入居者及びご家族が望まれる終末期における介護医療を提供できるよう努めます。
- ②多職種の協働により、看取りプランの作成とカンファレンスを実施し、入居者本人はもとより家族や職員においても、不安なく看取り介護に取り組める体制作りをすすめます。

（７）安全な生活のための環境整備

入居者・利用者一人ひとりが安心して生活できるよう、転倒防止、設備・備品等の安全管理を行い、物品の整理整頓及び介護機器等の十分なメンテナンス等環境整備に努めます。

(8) ゆとりある多様な活動

行事やレクリエーションも、それぞれのユニット単位において利用者主体で行うよう工夫すると共に、施設全体で取り組む行事とのすみわけを行い、単調になりがちな日々の生活にゆとりと潤い、四季を感じながらの生活が実現できるように心がけます。

リハビリテーションの一環として、楽しく行えるレクリエーション(余暇活動)においても、入居者のみなさまが自主的に参加できる様、それぞれのユニットにおいて、内容等を工夫し実施します。

(9) 短期入所生活介護（ショートステイ）

短期入所生活介護(ショートステイ)は、在宅で介護をするご家族の介護負担軽減を主目的とするサービス事業であり、併せて、介護者の急病や虐待等により、要介護高齢者の安全を確保するために緊急避難的な利用も想定できる事業でもあります。

居宅支援事業所各介護支援専門員との連携・連絡、情報交換を十分に行い、迅速・円滑に利用できるように努めることで、地域のニーズに対応していきます。さらに、ショートステイの利用中であっても、利用者一人一人の、個性やご意見を尊重し、ご自宅での生活と変わらなく過ごしていただける様、支援します。

4. 管理・運営

(1) 経営基盤の強化

- ①適切な経営分析および安定した効果的な業務、資源管理を行います。
- ②施設サービスにおける、稼働率の向上及び、安定維持できる様に努めます。
又、短期入所サービスにおいても、稼働率の向上維持に努めます。
(ア) 待機者状況を定期的な確認や見直しを行い、退所者発生から新入居者の入居までの期間(空床期間)の短縮に努めます。
(イ) 長期入院者に対して、入院病院と病状等確認や家族を含めてのカンファレンスへの参加を行い、早期退院・施設復帰が、できる様相談・援助を行います。
- ③各業務及び職員全員が、業務の効率化と合理化を常にめざし、光熱費や消耗品費等における無駄の排除に努めます。
- ④入居者利用者の重度化及び認知症罹患者の増加による、医療・介護ニーズの多様化、増大化に対応します。
(ア) 職員の介護負担の軽減や効率性及び多様な医療介護サービスに対応する機器等を積極的に導入します。
(イ) 一日の内で介護が必要な時間帯に合わせた多様な、パートタイム就労を模索するとともに、地域のボランティア等の活用を検討します。

- ⑤医療・保健、行政等関係機関、地域の関係団体等との連携を深め、支援の向上を図ります。

(2) 会議

①運営会議（毎月）

管理職員により開催。施設における介護業務全体の動向を把握し運営上の課題、調整事項等について協議・決定します。また、必要に応じ、ユニットリーダー会議や各部門のミーティングからの報告を受け、課題の協議・決定をします。

＜主な付議事項＞

- (ア) 介護業務全般に関する事項の検討
- (イ) 年間事業計画の検討、立案
- (ウ) 施設運営改善にかかわる事項
- (エ) 年度予算案全体
- (オ) その他重要事項

②全体ミーティング

職員全員を構成員とし、施設における課題、調整及び報告事項について、職員間の情報交換を行い、業務執行の円滑化、情報の共有化を図ります。又、職員研修の場として活用します。

③ユニットリーダー会議（毎月）

運営会議等による、施設の重要事項の伝達・確認・周知の為、さらに各ユニットの運営や問題等を確認します。又、ユニットリーダー同士の情報交換・情報共有を行い、それぞれのユニットがサービスを向上させ、職員個々のスキルアップを図ります。

④ユニット会議

夜勤帯の2ユニットもしくはそれぞれのユニットにより、ユニット内の運営やより良いサービスについて話し合うと共に、入居者利用者それぞれの生活、24時間シートやケアプランの確認、及びサービスの状況の確認を行うとともに、それぞれのユニットにおける課題等について検討します。

(3) 委員会活動

施設全体の生活支援を組み立てるうえで大切なことを「バランスのとれた生活支援の実践」と捉え、利用者の人権尊重を推進するとともに、生活全般（排泄、食事、入浴、健康管理等）の様々な分野において、それぞれ調査・検討及び実践する事を目的としての各種委員会を継続し運営します。

①身体拘束廃止委員会

②事故防止対策委員会

- ・事故報告、ヒヤリハット報告

③感染症対策委員会

- ④褥瘡予防委員会
- ⑤育成（サービス向上・人材育成）委員会
- ⑥生活介護委員会（消耗品管理、コスト管理の提案及び立案）
- ⑦レク・企画委員会
- ⑧食楽委員会（食事に関する介護業務における各部署との連携調整と立案）
- ⑨メンテナンス・リネン委員会
- ⑩衛生管理委員会
- ⑪苦情解決委員会

（４）職員研修

入居者・利用者の高齢化や重度化、多様化する福祉ニーズに的確に対応するため、必要な研修会や勉強会に、それぞれ職種が積極的に参加し、知識と技術の向上を図ることで、より良い施設運営、支援サービスの向上を図ります。

- ①施設外研修の充実
 - （ア）県や老人福祉施設協議会、ユニットケア推進センター、認知症ケア学会等より専門性の高い団体や看護協会、介護福祉士会、社会福祉士会等の職能団体主催の研修会への積極的な参加を勧めます。
 - （イ）ユニットリーダー研修、２４時間シート研修、認知症ケアや喀痰吸引等、より専門性のある資格や知識・技術の取得に向けた講習会等への参加を奨励します。
 - （ウ）地域ケア推進会議、他職種連携ケア会議及び認知症サポーター養成等、島内で開催される各研修会等へ、より多く参加できる様奨励します。
- ②施設内研修会（OJT）
 - （ア）各委員会の提案、看護協会、介護福祉士会、社会福祉士会等専門団体からの情報を得ながら、より専門的な知識・技術に基づいたケアの実践を目的とした施設内研修体制を構築します。
 - （イ）認知症ケア専門士等、専門的な資格や講習等受講した職員より、全職員への伝達と周知の為の報告会等の開催を行います。

（５）消防・防災

入居者・利用者が日々安心して快適で安全に暮らせるよう、防火・防災体制の維持・強化を行います。

- ①消防防災計画による、年二回以上の消防訓練の実施に努めます。
- ②災害時避難計画に沿った防災訓練について、消防署や自治体の協力・支援をいただき実施を検討します。
- ③自然災害における他の施設との協定に基づき、相互避難の受入、緊急時の協力体制の維持と強化に努めます。
- ④近隣公民館と相互防災支援協定等締結を目指すと同時に地元消防団員とも

日常的に防災支援が得られるような協力体制の構築を目指します。

（６）家族との連携

ご家族等と、入居者の体調変化、精神状態の変化など、日頃より連絡を密にし、相互信頼関係を築くよう努めます。さらに、制度改正や施設運営上の変更等がある場合には、その情報を適時かつ的確に提供します。また、利用者と家族や親族との交流を推進する為にも、施設行事への積極的な参加を呼び掛けます。

①家族会の開催

定期的に家族会を開催し、施設運営等についての説明を行うとともに、意見交換・交流により、施設運営等について理解と協力をお願いします。

また常に、ご利用者本人・ご家族等の意向を把握し、施設運営に活かします。

②ニーズ調査

ご家族及びご本人から、施設に対する要望等の把握の為、ご意見箱の設置及び、定期的なアンケート調査等実施し、ご要望や意見ご指摘を把握し対応することで、より良い施設運営ができるように努めます。

（７）地域との交流

①地域への貢献を重要な役割の一つとして捉え、施設の行事へ地域住民の参加を勧め、又地域住民や学校等からの施設見学を積極的に受け入れていきます。さらに、入居者利用者においても地域との関係を維持していくことができるよう、地域行事への参加を積極的に進めます。

②ボランティアの受け入れ

施設の社会化の一環として、地域への開放を重要な役割の一つとして捉え、さまざまなボランティアを積極的に受け入れ、活動の場を提供します。

③地域における公益的な取組として、生活困窮等高齢者の入所における負担軽減や、行政からの相談・要請等による虐待等緊急やむを得ない措置の入所やショートステイ利用に対して、できる限り対応します。

④地域における高齢者福祉サービスの拠点として地域福祉の向上に役立ち、地域の期待に応えられる施設運営を推進します。

（８）広報活動と情報公開

ホームページを活用し、定期的に施設における入居者様の最新の生活及び活動の状況を発信します。必要な情報を的確に開示します。

５．栄養・調理業務

食事は、入居者、利用者のもっとも楽しみの一つであり、重要なケアサービスである事を認識し、生命の糧、生命・健康の保持ばかりではなく、こころ豊か

な生活を送る為の大切な役割を果たしています。その為にも、季節感あふれた美味しい食事を提供します。

ショートステイ利用者の食事についても、同様に実施します。

①安全・安心な食事の提供

食中毒を防ぎ、安心して食事が出来るよう、調理室の清潔を保ち、衛生管理を徹底するとともに、健康管理に努めます。

②食事による健康の維持と疾病予防、治療食の提供

(ア) 施設の栄養所要量に基づく献立により、健康の維持を図ります。

栄養所要量／日

エネルギー	たんぱく質	脂 質	カルシウム
1, 400 k cal	60 g	35 g	600mg

(イ) 嚥下障害により、食事摂取困難な利用者の食事に工夫を凝らし、量が少なくともバランスのとれた食事を提供します。

(ウ) 医師の指示による治療食、風邪などにより日常の食事が食べられない時に対応する応急食、栄養を補うための捕食等を充実し、疾病の悪化防止と回復に努めます。

(エ) 治療食を必要とする人が偏った食嗜好を持つ場合は、栄養指導を行い助言します。

④生活に豊かさと満足感を味わえるような食事を提供します。

⑤ニーズ調査・嗜好調査

入居者の現に食べたいもの、好きな食材や料理等を知り、献立に反映する為、嗜好調査、残菜調査を実施する。また定期的に利用者の身体状況や嚥下状態等のニーズについて、利用者個々や多職種から定期的に収集し、食事内容や形態について個別に対応します。

6. 組織図

※別紙①

